

4節 壁の配筋

4. 2 壁の補強

(a) 壁開口部の補強

(1) 壁開口部の補強筋は壁断面表による。
壁の開口補強要領は図4.7及び図4.8による。

(注)1. 壁厚200以下の壁開口に適用する。
2. 開口最大寸法が200以下の場合は補強筋不要。
3. a寸法が100以下の場合は補強筋不要。
4. 補強筋は壁断面表による。
5. 補強筋は規定壁配筋以外に入れる。
6. 開口ピッチは、3x(隣接する開口寸法の平均)以上を原則とする。
7. 開口高さが階高の0.4倍を超える場合、縦補強筋は梁内にL2定着する。

図4.7 壁の開口補強要領(鉄筋格子の場合)

(2) 設備開口の補強要領は図4.9による。

(注)1. ℓ_o h 寸法を開口寸法とし、補強筋は壁断面表による。
ただし壁厚200以下の場合は、鉄筋格子による補強とせず壁断面表に示す縦、横補強筋を50%増とする。
2. b寸法500以上の場合は別開口として、個別に開口補強を行う。
b寸法500未満の場合は、必要なかぶり厚を確保の上、規定の壁筋と同径筋を $\phi 150$ 以下で配筋する。
3. 印部分は規定の壁配筋を行う。
4. 補強筋の定着要領は図4.7及び図4.8による。

図4.9 壁の設備開口補強要領

(b) コンセントボックス等を壁に埋め込むなど壁の欠込み部の補強は図4.10による。

(注)1. *が180未満かつ90以上の場合は、壁配筋表と同径筋を1/2間隔にてシングル配筋とする。
2. *が180以上の場合は、同径・同間隔でダブル配筋とする。但し、配筋が $\phi 16$ 以上の場合は、監督職員の指示による。
3. 開口補強材は壁断面表による。

図4.10 壁欠込み部補強要領

(c) 壁の打増補強配筋

壁の打増補強配筋は、図4.11により、打増厚さが50以上、かつ、200以下の場合に適用する。200を超える場合は、記入による。

(注)1. 壁厚200を超える壁開口に適用する。
2. 開口最大寸法が200以下の場合は補強筋不要。
3. a寸法が100以下の場合は補強筋不要。
4. 補強筋は壁断面表による。
5. 補強筋は規定壁配筋以外に入れる。
6. 開口ピッチは、3x(隣接する開口寸法の平均)以上を原則とする。
7. 開口高さが階高の0.4倍を超える場合、縦補強筋は梁内にL2定着する。

図4.8 壁の開口補強要領(鉄筋の場合)

4. 3 パラペット

パラペットの配筋は図4.12による。

(注)1. 壁厚200を超える壁開口に適用する。
2. 開口最大寸法が200以下の場合は補強筋不要。
3. a寸法が100以下の場合は補強筋不要。
4. 補強筋は壁断面表による。
5. 補強筋は規定壁配筋以外に入れる。
6. 開口ピッチは、3x(隣接する開口寸法の平均)以上を原則とする。
7. 開口高さが階高の0.4倍を超える場合、縦補強筋は梁内にL2定着する。

図4.12 パラペットの配筋

4. 4 耐震スリット

伏図、軸組図内の▼印および腰壁垂壁とSRC柱の間に適用する。

(注)1. 耐震スリット材(完全スリット)は既製品とし、都市基盤整備公団スリット材品質判定基準要求性能適合品とする。
2. 水平スリット材幅寸法(W2)
○ (25) mm
3. 鉛直耐震スリット材幅寸法(W1)
○ (25) mm
ただし、伏図、軸組図に記載されている場合は、その値を正とする。
4. 振止め筋
※鉄筋養生カバー付とする。
※外部に面する壁に設置する場合はエポキシ樹脂塗装鉄筋または溶融亜鉛めっき鉄筋とする。

図4.14 耐震スリットの配筋

5節 スラブの配筋

5. 1 スラブ

スラブ配筋は、次による。
(1) スラブの配筋要領は下記による。

(注)1. 先端の折曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図5.1 スラブの配筋

(2) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
(3) 鉄筋の重ね継手長さは、L1とする。継手位置要領は下記による。

図5.2 スラブ筋の継手位置

(4) 定着長さ及び受け筋は、図5.3による。ただし、引き通すことができない場合は、図5.4により梁内に定着する。
(5) スラブ筋を梁内に定着する場合は、梁の中心軸を超えてから梁内に定着する。

図5.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)

5. 2 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.4 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.6 先端に壁が付く場合の配筋

5. 3 スラブ等の補強

(a) スラブ開口部の補強
スラブ開口部の補強は詳細図による。詳細図がなければ次による。

図5.5 スラブ開口部の補強

(b) 床スラブの補強

図5.6 床スラブの補強

5. 4 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.7 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.8 先端に壁が付く場合の配筋

5. 5 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.9 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.10 先端に壁が付く場合の配筋

5. 6 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.11 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.12 先端に壁が付く場合の配筋

5. 7 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.13 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.14 先端に壁が付く場合の配筋

5. 8 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.15 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.16 先端に壁が付く場合の配筋

5. 9 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.17 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.18 先端に壁が付く場合の配筋

5. 10 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.19 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.20 先端に壁が付く場合の配筋

5. 11 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.21 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.22 先端に壁が付く場合の配筋

5. 12 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.23 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.24 先端に壁が付く場合の配筋

5. 13 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.25 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.26 先端に壁が付く場合の配筋

5. 14 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.27 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.28 先端に壁が付く場合の配筋

5. 15 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.29 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.30 先端に壁が付く場合の配筋

5. 16 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.31 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.32 先端に壁が付く場合の配筋

5. 17 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.33 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.34 先端に壁が付く場合の配筋

5. 18 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.35 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.36 先端に壁が付く場合の配筋

5. 19 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.37 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.38 先端に壁が付く場合の配筋

5. 20 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.39 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.40 先端に壁が付く場合の配筋

5. 21 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.41 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.42 先端に壁が付く場合の配筋

5. 22 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.43 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.44 先端に壁が付く場合の配筋

5. 23 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.45 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.46 先端に壁が付く場合の配筋

5. 24 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.47 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.48 先端に壁が付く場合の配筋

5. 25 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.49 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.50 先端に壁が付く場合の配筋

5. 26 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.51 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.52 先端に壁が付く場合の配筋

5. 27 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.53 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.54 先端に壁が付く場合の配筋

5. 28 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.55 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.56 先端に壁が付く場合の配筋

5. 29 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.57 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.58 先端に壁が付く場合の配筋

5. 30 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.59 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.60 先端に壁が付く場合の配筋

5. 31 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.61 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.62 先端に壁が付く場合の配筋

5. 32 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.63 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.64 先端に壁が付く場合の配筋

5. 33 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、下記による。
(1) 片持ちスラブの配筋及び厚さは設計図による。
(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

図5.65 片持ちスラブの配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。